

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第 号	氏 名	渡部 厚志
<p>主論文題目： 変化への期待、持続への期待： 東北タイにおける開発と小農社会の変容</p>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>タイ農村部は、1997年金融危機による落ち込みを経験した後、2000年代に登場したタクシン・シナワット政権による農村向け政策の効果もあって回復し、農業部門の成長が見られている。しかし、若年層はほぼ例外なく農業以外の部門で働いており、農業は村に残る中高齢者が、収入面でのメリットとは関係なく「ただ」続けている。</p> <p>本研究は、このような社会経済の変化を経験する人たちが、生活の変化や持続に対する期待を形成する方法を検討した。この目的のため、一連の農村向け政策が実施されたタクシン政権時代およびそれ以降の時期に東北タイの3箇所の農村部で実施した聞き取り調査を分析した。</p> <p>第一に、日常生活に必要なものごとは市場で購入するか新たな公的制度を用いて入手する場面が増えている。第二に、東北タイ農村の人々は以前から農耕を営む場所や農閑期に働く場所を集団で切り開き維持していたが、近年では一人ひとりが、自分と家族の将来の生活を変える資金を得るために働く場所を探すようになってきている。第三に、今では誰もが「高い教育を与え、いい仕事をする」ことを子どもの将来に「期待」する。</p> <p>三つの側面の変化を検討するにあたり、地域の人々が暮らしを思い描き語る際に用いる対比—例えば、何も変わらない村での今までどおりの暮らしと今までと違う暮らし、何も選ぶことの出来なかった過去の自分と子どもにチャンスを与えるために努力する今の自分—に注目した。自分と他者、過去と現在と将来、田畑で生きる暮らしとそれ以外の方法を、自分自身の地図と物語に配置することが、人々の「期待」を形成し、新しいチャンスやリスクに対応する方法を決める。</p> <p>こうした検討から、タクシン時代以来の一連の農村・貧困層向け政策の意義を、地域の人が、そうした政策のもたらす新たな機会を、自分の暮らしの地図と物語に位置づけることができるか否か、人々の「期待する能力」にどのような影響を持つものかという観点で再考することもできる。</p> <p>キーワード：東北タイ、農村開発、生計、ケイパビリティ、期待する能力</p>			